

「未来に向けていま、私たちができること」

終末期・緩和ケア作業療法研究会会長 目良幸子



メッセージ：

当研究会が発足して10年を迎えます。たくさんの方に支えていただきながらここまでくることができました。今回、第10回の年次研究会を開催するにあたり、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

この第10回の研究会は講師全員が当研究会の会員、作業療法士です。いままでコツコツと積み上げてきた知識と経験を参加者の皆さまと共有できることを嬉しく思います。当研究会は「終末期」「緩和ケア」「がんリハビリテーション」の3つを柱に、「つながろう」「学びあおう」「コミュニケーションしよう」ということを大切にして歩んでまいりました。これからもこの3つの柱と、仲間と共に歩むという気持ちを忘れることなく活動を続けていきたいと考えています。

今回私からは若い作業療法士に向けて「よいケアのために自分自身をケアする」ということについてお話させていただきます。個人として、また研究会として次の10年を価値ある成長の機会にするため、大切なことは何かを共に考えてください。

略歴：九州リハビリテーション大学卒業

臨床：大阪労災病院、淀川キリスト教病院、近畿中央胸部疾患センターなど

教員：国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院、近畿中央胸部疾患センター  
附属リハビリテーション学院、東名古屋病院附属リハビリテーション学院

現職：医療法人緑会たなかクリニック訪問部非常勤

株式会社かなえるリンク訪問看護ステーション非常勤

京都大学人間健康科学科非常勤講師、新潟医療福祉大学作業療法学科非常勤講師

平成リハビリテーション専門学校非常勤講師、近畿大学非常勤講師